

次年度(令和6年度)に向けた改善方策

令和6年度の重点目標

本校の今年度の重点目標

1「キャリア・未来デザイン教育」の実現に向けて

子ども一人ひとりの多様な個性や能力を伸ばし、変化の激しい時代を生きるために必要な資質・能力を培い、生涯を通じて学び、地域社会で活躍できるようにするため、生活科・総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラム・マネジメントの研究を推進し、学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わい、「今の学びが将来につながっていること」や「学びは本来ひとつのものであること」を実感できるようにする。

〈改善方策〉

アンケート結果及び関係者評価委員会報告書からも、学び合いの場は十分に創出できており、それを児童も実感していることがわかる。今後も共感・協働の学びにおいて、発言は得意ではないが静かに考えている児童の思いや考えを共有することの重要性を全教職員に浸透させていく。

加えて、総合的な学習の時間において、地域での体験活動、探究活動が増え、地域の方々から感謝される場面が増えていることは、今後子どもの意識によい影響を及ぼしていくものと考えられる。校内研究を通して生活科・総合的な学習の時間の活動内容をさらに充実させ、地域を学びの場とした学習活動を展開していく。

2 教育DXの推進

一人一台のタブレット端末を学習の基盤ツールとして活用することで、多様な学びの機会を保障する。その際には使い方を自律的にコントロールできるようにする。ICTの活用により、習熟度や学習の進度、興味・関心等、児童の個々の学習状況に応じた「個別最適な学び」、異なる考えや価値を組み合わせ、探究的な学習や体験的な活動を通じた「協働的な学び」の充実を図る。

〈改善方策〉

これから個別最適な学びを実現していくためにも、タブレット端末の活用は必須である。その一方で、その使用時間や使い方において自己管理能力が求められる。真に役立つ文房具としてタブレット端末を活用するために、教員の意識を高め、子ども自らが理想的な使い方ができるよう常に機会を捉え指導していく。

3 地域社会と協働した教育の推進に向けて

キャリア教育につながる生活科・総合的な学習の時間の単元開発をより充実させ、商店街や地域の美術館、専門学校や農業高校と連携した学びを構築していく。子どもたち自身が地域に出向き、そこでの探究的な活動を展開できるような学びを創造していく。地域の役に立つ喜びを子ども一人ひとりが実感できるようにする。

〈改善方策〉

今年度、かなり活動が充実したが、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域に根差した教育活動をさらに具現化していく。地域との連携を深め、学びの場を学校の外へ創っていくことで子どもたちが必然を感じながら生き生きと探究的に学ぶことにつながると信じている。